

【全体】

修正公表 営業利益1,050億円に向けて順調とのことだが、事業別の状況についてコメントをいただきたい。

プラス面はベトナム・フィリピンの二輪車で、予定以上に利益が高く推移している。それ以外のアセアン二輪車も好調。マイナス面はROVで想定よりも小売が進んでいない。

マリンは非常に堅調で大きな変化はない。先進国二輪車は、為替影響を除けばほぼ予定通り。

中期経営計画では成長戦略費用を中心に増やすとのことであったが、来期以降の見方をアップデートいただきたい。

成長戦略費用について個別の内容はお伝えできないが、四輪車や先進技術に関する研究を進めている状況。また、研究開発費の見通しについては、現時点で計画通りの進捗を見込んでいる。

キャッシュ・フローについて確認したい。運転資金や販売金融などの個別の状況について解説いただきたい。

今年は先進国のみならず、新興国も含めて各市場の在庫のコントロールを進めており、フリー・キャッシュ・フローベースでは大きな金額を生み出している。また、設備投資などキャッシュに関わる部分については、予定通り進めていく。販売金融が減ったように見えるのは、為替換算影響が大きいとご理解いただきたい。今後も販売金融は順次自前化していく予定。すぐに効果が現れる分野ではないので、長期的な視点を持って事業運営にあたりたい。

【先進国二輪車】

欧州の生産体制改善について教えて欲しい。最近では台数もある程度回復し、新型モデルがヒットした中で、円高が少し足を引っ張っている印象があるが、今後どういった施策を考えられるのか。

過去にスペイン・イタリアの工場合理化などを実施している。今後は、生産するモデルそのものも欧州にあったものに切り替えていく。ここでは詳細な説明は控えるが、モデルや生産体制を含めて更に進めていきたい。

【新興国二輪車】

インドネシアの総需要がこれだけ落ちる中で、高い収益を維持している。台数が回復すれば、さらに利益が増加するのではないかと考えられるが、来期以降の見方について教えていただきたい。

インドネシアは総需要が減少する環境下で、当社もだいぶ耐性もつき、利益も上がるような施策が取れてきている。総需要の回復は期待しているが、現在のところ改善の見通しは出てきていない。具体的には、スマトラ、カリマンタン、中部ジャワなどの外島部を中心に未だに弱含みであり、もう少し様子を見なければならぬと考えている。

インドの市場環境や御社の収益の状況などについてアップデートいただきたい。

インドの総需要は、ここ2~3年少し足踏みをしていたが、今年に入って再度上昇に向かっている。今年の総需要は1,750~1,800万台を見込んでおり、現在のインド経済の好調を考えれば、2020年ごろには2,000万台規模に拡大すると見込んでいる。そのような環境の中で、当社も台数を伸ばすことができている。今年の販売計画は80万台強で、来年は100万台超を目指したい。チェンナイの工場も既に安定稼動に入っている。今後も非常に大きな伸びが期待できる市場であり、モデルの拡充についても注力していきたいと考えている。利益はまだまだ小さいが、来期以降は徐々に全体の利益に貢献するような事業になっていくと考える。

ベトナム、フィリピンの市場拡大や収益性改善の背景と、今後の持続性について教えていただきたい。

ベトナムは、2012年ごろから経済状況の影響を受けて下降していたが、再度上昇に転じている。また、従来は低価格のモペットが市場の中心であったが、徐々に高価格のスクーターやスポーツタイプが売れるようになってきている。フィリピンは、好調な経済状況を受けて総需要が拡大しているが、それ以上に我々も順調にシェアを拡大している。利益率の高いスクーターをメインに拡大してきており、スクーターだけを見れば7割のシェアを持っている。この2つの市場は、当面は良い状況が続くと見ている。

【特機】

ROVの市場が弱い背景について解説いただきたい。また、ポラリスのリコールは、御社の販売にとって好機なのではないのか。来期のマーケットの見方、御社のシェアについての考え方を教えていただきたい。

全体の総需要の伸張率が、1Q、2Q、3Qと進むにつれて、縮小している。我々も当初期待していたYXZ1000Rの在庫適正化に努めているが、市場の動きが少し鈍いということもあって少し時間がかかっている。来期以降の総需要については今年並みとみるか、若干減少とみるかは議論の最中であるが、急激な改善を望めるとは考えていない。

以上